

授かった仕事は何であろうと一生懸命。
「なるように、なります」

株式会社 岩電商会

代表取締役社長 岩田 重計 氏

昭和44年創業。昭和10年、各務原市生まれ。「祖父は明治5年生まれにして測量士。ラジオを教えたくれた叔父は電鉄マン。代々農家の家系なのに、なんだかおかしなもんですね」という岩田さんの不思議でもある「エレクトロニクス」との出会い、「人」との出会いなどを伺いました。

エレクトロニクスの出会い

岩田さんが「鉱石ラジオ」にはじめて出会ったのは小学校時代（戦時中）でした。
「叔父が趣味で作っていて、部品をいっぱい持っていていましたね。とにかく夢中になりました」
鉱石ラジオはレシーバーで聴くことしかできませんでしたが、岩田さんはこの「不思議な箱（ラジオ）」に興味を深まるばかり。



▲代表取締役社長 岩田 重計 氏

東京神田から通信販売で部品を取り寄せ、ドキドキしながら組み立てたそうです。
当時は戦後で石油の入手が難しく、もみ摺り機等の農業機械の動力は専ら電気モーターでした。それらの送電用の電線はよく切れてしまい、そこで修理に岩田さんは引っぱりだこでした。
「その頃には叔父の鉱石ラジオのレシーバーを使い慣れていたもので、レシーバーを使って断線位置を確認することができたんです」
どうして断線位置が解るのか不思議がられ、レシーバーをかけて修理をしたので「電気のお医者さん」のように思われ学校帰りに「重ちゃん待ち」で修理をし重宝がられたと、懐かしげに照れ笑う岩田さん。
「頼りにされればされる程、増々電気に興味を持つようになりました」
その後、ソニーが「トランジスタ」

仕事も人も、出会いを「受け入れる」

中学卒業後、働きながら夜学へ。そのなかで運命ともいえる出会いがありました。
「忘れもしません。高校3年の冬休み、人手が足りない頼まれアルバイトに行った先（現 田澤電材）の先代社長との出会いです」
社長の熱心な経営姿勢に、引き込まれるように仕事に励んでいた岩田さん。ですがある日、店を切り盛りされていた奥様が急逝。
「これでは田澤さんもお店を閉められるだろう」と思いアルバイトを辞め、念願の電気製品の仕事を始めようと東京で情報を仕入れて帰った夜、両親から「田澤さんが二度ほど訪ねてくれた」と。「すると又その夜田澤さんが訪ねて来られました」
田澤さんからは「二人で会社をやっていかないか」との言葉が。しっかりと握られた岩田さんの手の上に涙が落ちてきました。
それからは、本業として仕事に専心。2人から始めた会社も徐々に人は増えましたが、運転免許があるのは社長と自分の2人だけ。岩田さんがもつばらオート三輪で、配達・外回りに駆け回る日々が続きました。日中は市内、それを終えて県内各地へ。全ての配達が終

わるのが夜中の2時や3時になることもしばしば。「ストレス発散は、もつばら徹明町一帯にあった屋台でした」と語る岩田さん。そこで若き銀行マンと意気投合。それがまた運命の出会いとなりました。

どんな試練も前向きに

体調を崩し、34歳の時に退社。そして独立。しかし、いつも心を前向きに「自分のペースで、できるだけのことをやるようにしてきた」と振り返ります。この前向き思考が今、健康な状態を維持できている岩田さんの元気の源です。
その後、屋台で一緒に時を過ごした銀行マンと偶然の再会。
「彼は支店長になっていて、当時の私には大きすぎるほどの土地と建物を紹介してくれました」
多額の借金を抱える決断でしたが、モットーを「前向きに」とする岩田さん。
「支店長のおかげで早くに社屋を構えることができ、大きな信用を得ることができました」
屋台での出会いに感謝するばかりだと、今も懐かしく思い返します。

「座右の銘というほどでもありませんが、いつも心のなかには『財選入』という文字があります」
これは岩田さん独自の造語。

「財に『あなたは持っていていいですよ』と選ばれると、そこへ財が来る。来なきや『選ばれなかったなあ』それだけなんですよ」
岩田さんの笑顔は続きます。
「そう思うと気が楽でしょう？なるようになる、です」



Company Data

株式会社 岩電商会

所在地 ● 岐阜市八島町16番地
電話 ● 058-271-1379
FAX ● 058-274-0077
URL ● <http://www.iwaden.co.jp/>
業 種 ● 電設資材・自動制御機器・産業用電子機器・空調機器・太陽光発電システム蓄電システム・家電機器・照明器具・航空機工場配線器具等販売、施工